

学校経営推進費 評価報告書（2年目）

標記について、下記のとおり提出します。

1. 事業計画の概要

実施課程名	支援学校 職業コース
取り組む課題	生徒の自立支援
評価指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職業コース生徒数の増加</li> <li>・生徒の授業満足度の向上</li> <li>・保護者の学校評価向上</li> </ul>
計画名	西浦支援 夢のお仕事プロジェクト

2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	<p>2 キャリア教育の充実                  (2) 地域のリソースを有効に活用することで作業学習や職業コースの授業の充実を図り、関係機関や商業施設、地域事業所等と協働した事業の創設をめざす。</p>
事業目標	<p>○本事業を活用し、水耕栽培を導入することでより強力に本校の教育力向上をめざす。                  体育館1階の屋内作業室内に水耕栽培設備を導入し、年間を通じて作物を栽培、収穫するシステムを構築することにより、天候に左右されずにより安全に実習を行い、生徒の自立支援を促進する。水耕栽培を活用することで定期的に作物を収穫することができ、学校行事、駅前や道の駅での定期的な販売実習に取り組み、生産から消費者に手渡すまでの過程をトータルで学び、同時に本校生徒が地域住民に対し貢献できることを示す。</p> <p>○他に、以下の3つの効果が期待できる。                  ①生徒一人ひとりが種の植え付けから収穫までを一貫して行うことで、直接作物の生産から成功体験や失敗体験（丁寧な作業することで作物が収穫できること、作業が雑になれば作物は枯れること）を経験し、生徒の目標設定と課題解決に対する取組みについての理解を促進する。                  ②生徒一人ひとりの実態に応じた授業のスタイルを構築できる。                  ③社会に対して、新しい障がい者雇用の形を提示できる。適切な環境があれば、障がいのある人も様々な職種での就労が可能であることを示すことができる。                  取組みの様子は随時ホームページや「学部通信」にて学校の内外に発信していく。取組みを全校的に発信していくことで、小・中学部の児童生徒に対し、就労に対する意欲向上をはかり、学校全体のキャリア教育力向上にも寄与できる。</p>
整備した 設備・物品	水耕栽培キット8式（体育館1階更衣室）
取組みの 主担・実施者	<p>取組みの主担：高等部実習担当教員                  取組みの実践者：実習担当教員。販売学習は高等部全教員</p>
本年度の 取組内容	<p>○高等部生活コース2年生生徒52名が職業科の授業内で水耕栽培に取り組んだ。                  ・フリルレタスやサラダ水菜、チンゲン菜、スイスチャード、わさび菜等、様々な葉物野菜を育成した                  ・課題別に2～3グループの班編成で授業を行った。どの班の生徒も、種まきから収穫までに携わることができた。                  ・植物を栽培する以外にも、収穫した袋に貼るラベルシールをデザイン作成し、袋に貼る作業を行った。                  また、実際のスーパーマーケットではどのように野菜が販売されているのか実地調査を行った。                  ・収穫した野菜を持ち帰った生徒の保護者に、良い点や改善点を尋ねるアンケート調査を行うことにより、生産から流通についても水耕栽培を通して実体験として学ぶことができた。</p>
成果の検証方法 と評価指標	<p>①生徒の授業アンケート：肯定的意見（実習についての「A: そう思う」「B: だいたいそう思う」の合計）を70%以上にする。                  ②保護者の学校評価：肯定的意見（下記の内容の「A: よくあてはまる」「B: ややあてはまる」の合計）を55%以上にする。                  ⇒【学校教育自己診断】の「学校は特色のある教育活動に取り組んでいる。」「学校は将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている。」の質問項目の結果を代用する。</p>
自己評価	<p>※（記号説明）大きく上回った（◎）、上回った（○）、達成できず（△）、実施できず（×）</p> <p>①生徒の授業アンケートについては、肯定的意見（実習についての「A: そう思う」「B: だいたいそう思う」の合計）が、「勉強はたのしいですか。たのしく参加できていますか。」や「勉強はわかりますか。これからがんばろうと思いますか。」という質問項目に対して、65%であった。（△）                  ②保護者の学校評価については、【学校教育自己診断】の「学校は特色のある教育活動に取り組んでいる。」と「学校は将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている。」の質問項目の結果はそれぞれ「肯定65%」、「肯定60%」とどちらも50%を超え、前年度と比べてそれぞれ「13%増加」、「9%増加」であった。（◎）</p>
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の授業満足度の向上については、障がいの状態に関わらず、生徒の活動によって農作物が成長し、収穫し販売できるという喜びを体験できるようにする。</li> <li>・定期的な販売に向けて、種をまく期間や間隔を調整し、生徒が年間を通じて働く力をつけ、働くために必要なことを体験できるようにする。</li> <li>・生徒が種まきから収穫まで携わっている実感を得ることができるよう授業作りを行う。また、校内での実習と連携し、授業内容が卒業後の働く力につながっているということを実感できるような評価の一層の向上をめざす。</li> <li>・保護者の学校評価の向上については、行事や参観日、週間等を活用しながら授業中の生徒の様子が分かる仕組みを整える。そうすることで、日々の授業内容が生徒の進路指導にもつながっていることや生徒の実態に応じた幅広い進路選択につながっていることを理解していただき評価の向上をめざす。</li> <li>・職業コース参加人数については、前年度に見込んだ50名を超えることをめざす。</li> </ul>